

田舎として

備前緑陽高校 二年 近藤 胡桃

私は、将来の備前市は活気あるあたたかい「田舎」になって欲しいと思っている。具体的にいうと、地域の交流が盛んで、安全であたたかい雰囲気、過ごしやすい町になって欲しい。その為には、今の備前市の現状をみつめ、これから備前市が発展するためにはどうすべきなのか、考える必要があると思う。

初めに、日生生まれ、日生育ちの祖母、母を持つ、同じく日生生まれ、日生育ちの私が、これまで感じてきたこと、『フィールドワーク』という総合的学習の授業を利用して新たに気づいたことなどを元に、私なりに備前市の現状を挙げた。その中で、観光業、自然、交通の便、店の充実度、地域のつながりの五つを備前市の発展に活用、改善できないかと考えた。

私が考えるに備前市は、岡山市や姫路市などの交通や店が充実した都市から離れた田舎である。その為、電車の本数は三十分から一時間に一本、バスは一時間から二時間に一本と交通の便が悪く、店の充実度も偏りがあり、車が無くしては生活が困難だ。

しかし、そんな田舎だからこそその地域の

あたたかさや心を穏やかにする大自然、観光業などがある。私はこれらを利用して、田舎町に住みたい人、環境の良いところで子育てをしたい人などの一部の層を狙うのはどうかと考えた。

私がこのような考えに至ったには二つの理由がある。

まず一つ目は私がアルバイト中に起きた出来事からだ。私は通学路沿いにあるガソリンスタンドでアルバイトをしているのだが、ある日県外のお客様への接客中、中学生が元気な挨拶をして店の前を通った。

「こんにちは！」

「おかえりー。」

「ただいまー。」

私達にとってはごく自然な日常の一部だが県外のお客様は驚かれていた。

「初めてああいうのを見ました。良いもの

を見させていただきました。」

これも地域の魅力だと改めて知った。

二つ目は、都市の方から日生に引越された方に、なぜ日生に住もうと思ったのか伺った時、海が一番きれいで、町があたたかかった高齢者が元気な町は良い町、と言っていたからだ。

このような理由から私は、田舎だからこ

そある人のあたたかさやつながりを大切に、活気あるあたたかい田舎になって欲しいと考えている。ただ、生活していて店が遠いことや交通の便が悪いことなど、不便なことが多いのはたしかため、スーパーマーケットやコンビニ、電車の本数を増やすなどの店や交通の改善は、住みやすい町づくりの大きな一歩になると思う。



No one can make you be considerate; it is your decision.

旧関谷学校創学350年記念「ろんこカルタ」より